

# 沖縄における新たな

## 物流構想の策定に向けて

「沖縄における新たな物流構想基礎検討委員会」（第三回委員会）開催

### Point

沖縄における新たな物流構想基礎検討委員会は、島嶼県沖縄において港湾が物流面で現在抱えている問題点を把握し、その解決方策を検討するための委員会です。10月19日（木）に第一回、12月15日（金）に第二回委員会を開催し、今年度の取りまとめの第三回委員会を2月5日（月）に開催しました。

沖縄総合事務局では、物流に関する県内外の状況の変化を的確に捉え、島嶼県沖縄の港湾が物流面で現在抱えている問題点を把握し、その解決に向けた方策を検討して行くため「沖縄における新たな物流構想基礎検討委員会」を立ち上げ、議論してきました。

この度今年度の取りまとめの第三回委員会を開催し、沖縄の物流面での課題と対応方策をまとめました。

当委員会では、沖縄の物流を「国際物流」・「国内物流」（沖縄県外の本土との物流）・「離島物流」（沖縄県内の島々の間の物流）・「本島内物流」の4つに分けて議論を行ってきました。

国際物流や国内物流では、沖縄へ入ってくる貨物に比べて沖縄から出ていく貨物が少ないため、非効率な物流となっていることなどが問題点としてあげられました。

離島物流では、宮古島・石垣島を含む離島の廃棄物対策等が問題点としてあげられ、本島内物流では那覇港への貨物の一極集中などの問題点が挙げられました。

これらの問題点を解決する方策として、那覇港の国際中継港湾の実現、本土への県産品の共同出荷の促進、リサイクルポート中城湾港の活用、本島内港湾の適切な役割分担の実現等の方策が提案されました。

今後、これら方策を実現する

際の問題点及びその解決方策を議論し、来年度には沖縄の港湾における新たな長期構想を策定する予定です。



那覇港の国際中継港湾実現



リサイクルポート中城湾港の活用

### 委員会メンバー

	氏 名	所 属	職 名
委員長	池 田 龍 彦	横浜国立大学大学院	教 授
委 員	安 里 カツ子	(株)りゅうせき	取締役副社長
委 員	大 嶺 秀 宣	(社)沖縄県倉庫協会	会 長
委 員	幸 喜 徳 子	沖縄石油ガス(株)	代表取締役専務
委 員	牧 志 泰 三	(社)沖縄港運協会	会 長
委 員	湧 川 善 充	(株)メイクマン	代表取締役社長